

平成21年6月26日

東日本高速道路株式会社  
関東支社横浜工事事務所  
栄東工事長 加藤 健治

「横浜環状南線の設計・用地説明会の中止を求める」について（回答）

貴会ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素より、弊社事業に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

平成21年6月12日付けで弊社横浜工事事務所所長宛に提出された「書面」について、以下のとおり回答いたします。

なお、所長に提出されておりますが、釜利谷ジャンクション付近から神戸橋交差点付近までの設計・用地説明についての内容であるため、事業を担当しております当職より回答致します。

記

設計・用地説明は、土地所有者等関係権利者や地域の皆様に、構造等の具体的な説明を行い、同時に用地補償に関する基本的な考え方の説明を行うものです。

このため、工事着手時の具体的な施工方法や施工計画については、今後の検討によりますが、庄戸トンネルは、当初、開削工法が想定されていたことは、ご存知のとおりです。しかし、地元の方の意見も踏まえ、施工中の環境影響を極小化することを目的に「庄戸トンネル検討会」（委員長：今田徹東京都立大学名誉教授）を設置し、非開削工法の適用可能性等について検討してまいりました。また、地元要望である「下越えトンネルへの見直し」についても、地元の方との協議の場である「技術検討会（仮称）」において、1年間・10回にわたり真摯な協議を重ねてきたものと認識しております。

これらの協議・検討を踏まえた事業者見解として「分合流部は、非開削工法（NATM工法）の適用性があると考えられる。低土被り部は、土被りが確保できない区間もあるため、非開削工法の適用性は低いが、さらなる検討を続けていく。」旨を、住民の皆様との話し合いにおいてご説明させていただいているほか、ホームページにも公表しているところです。

当該区間は横浜環状南線で唯一、設計・用地説明が未了な区間であり、事業遅延の一因となっております。一方、沿線地域でのアンケートでは約9割の方が開通に期待を持たれております。

様々なご意見があることは承知しておりますが、以上を踏まえて、今般、基本構造について一定の整理がついたことから、設計用地説明を実施するものです。

事業の進捗を図りつつ、住民の皆様との話し合いを行い、ご理解が得られるよう努めてまいりますので、今後とも、ご理解とご協力をお願いいたします。

以上